

## 練馬区立小学校の特別支援学級・特別支援教室

特別支援学級（知的）は、小学校 16 校に設置されている学級です。

特別支援学級は、一人一人の児童の状態や特性などに応じ、通常の学級とは異なる教育課程で教育を行っています。また、運動会等の学校行事は、通常の学級の児童と交流を深めています。

特別支援教室は、全小学校に設置されている教室です。

練馬区立小学校には、次の特別支援学級・特別支援教室が設置されています。

- |                |            |
|----------------|------------|
| (1) 特別支援学級（知的） | 16 校【固定学級】 |
| (2) 特別支援教室     | 65 校       |
| (3) 特別支援学級（難聴） | 2 校【通級学級】  |
| (4) 特別支援学級（弱視） | 1 校【通級学級】  |
| (5) 特別支援学級（言語） | 5 校【通級学級】  |

### 特別支援学級（知的） 【固定学級】

特別支援学級（知的）は、知的発達遅延の状態が比較的軽度の児童を教育するために設置された学級です。軽度の知的障害とは、日常生活に差し支えない程度に、身の回りのことから処理できますが、抽象的な思考などが困難である状態のことをいいます。

具体的には、小学校入学にあたって、時間の概念が理解できなかつたり、比較的短い文章の全体的な内容を理解し、まとめて話したりすることが困難な状態です。また、同時に、家庭生活や学校生活におけるその年齢の段階で求められる食事や衣服の着脱、排せつや簡単な片づけ、身の回りの道具の活用などにはほとんど支障のない程度です。

#### 指導内容

健全な身体づくり、基本的な生活習慣の確立、社会生活に必要な言語・数量などの基礎的な知識・技能・態度を身につけることなどを重視しています。また、宿泊学習をとおして、身近な自然現象や社会事象に対する関心を高め、学校における学習を実際の生活場面に生かせるよう配慮しています。

### 特別支援教室

特別支援教室は、知的にはそれほど遅れていないのに注意力や集中力が散漫な子、座席からすぐ離れて自分の興味のあるところに行ってしまう子、一つのことにこだわるとなかなか気持ちの切替えができない子、悪気ではないのに友だちとトラブルになりやすい子、学習の一部にだけ落ち込みがある子、おしゃべりは上手なのに書くことや作業能力に課題がある子、情緒的な不安により選択性緘黙の子などが対象になります。通常の学級での集団学習だけでは学校生活に適応が難しい児童を対象としています。

指導内容

一人一人の児童にあった指導内容を、個別指導の形で行います。また、集団適応や社会性を身につけるためにグループによる指導もしています。具体的には、失敗経験による苦手意識の克服、生活・学習全般にわたる意欲を育てながら自信を回復できるような学習内容を組んでいます。対人関係や社会性を広げるための学習もします。また、集中力や手先の器用さ等を育てるための作業学習も取り入れています。

**特別支援学級（難聴） 【きこえの教室・通級学級】**

きこえの教室は、聴覚障害の程度が比較的軽度の児童を教育するために設置している学級です。概ね両耳の聴力損失が100デシベル未満60デシベル以上で補聴器を使用すれば通常の話声を解するに著しい困難を感じない程度をいいます。あるいは60デシベル未満であっても、補聴器を使用しても通常の話声を解することが困難な程度をいいます。

指導内容

きこえの教室では、残存聴力の活用を図る指導、正しい発音・発語の仕方を系統的に育てる指導、言語の理解力や表現力を伸ばす言語指導、補聴器の適切な扱い方の指導を行っています。

一人一人の障害の状態を把握するために聴力測定、発音・発語の状態、言語の習得状況などについて、諸検査を実施し、専門的な判断に基づき、個別指導をしています。

**特別支援学級（弱視） 【目の教室・通級学級】**

目の教室は、矯正視力がおおよそ0.1以上0.3未満の児童を教育するために設置している学級です。

指導内容

目の教室では、児童一人一人が自分の視力を十分活用して、効果的な学習が行えるよう照明や書見台などに工夫を加えて、見やすい条件を整えています。

また、上手な見方を育てるために、各種の拡大レンズや教材拡大映像装置などの活用を図っています。

**特別支援学級（言語） 【ことばの教室・通級学級】**

小学校のみに設置されています。ことばの教室は、構音障害、吃音、ことばの遅れなどの言語障害のある児童を教育するために設置しています。

指導内容

ことばの教室では、教師と児童との1対1の指導を中心に、一人一人の障害の状態に応じた指導を行っています。ことばの発達が遅れている場合は、できるだけ遊びや日常の生活体験と結びつけた言語の基礎的な指導を重視しています。構音障害の場合は、発音、発語指導が主な内容となっていますが、できるだけ楽しい雰囲気の中で話すことへの意欲を高め、正しい言語表現の定着を図っていきます。